

気象変動に負けない米づくり！ 28年産米のスタートは土づくりから！



昨年は広い地域で台風による被害が発生しました。被害地域では収量・品質ともに低下し、大きなダメージを受けました。台風以外にも、春先の低温、強風、夏の過高温、日照不足、水不足・・・

稲作において気候はその年の収量・品質に大きく影響します。異常気象を回避する方法はありませんが、影響を最小限に抑えるため、もう一度基本技術の励行を徹底し気象変動に負けない稲を作りましょう。

1. 土づくりにおけるケイ酸の効果

① 茎葉が硬くなる

- ・葉が立ち下葉まで光が届くので光合成量がUP
- ・倒伏の軽減
- ・病原菌の侵入や害虫の食害を防ぐ

② 根張がよくなる

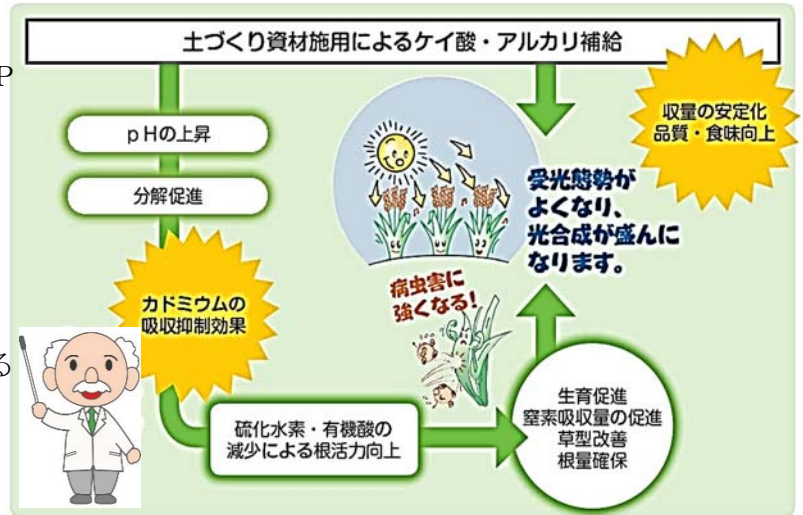
- ・肥料成分の吸収量UP

③ 気孔の調節に関わる

- ・葉からの蒸発を活発化し、稲体の温度を下げる
- ・フェーン等乾燥時→蒸散を抑制

④ pHを上げる

- ・微生物による有機物分解の促進
- ・硫化水素や有機酸等有害物質の発生を抑制
- ・カドミウムの吸収抑制



2. 堆肥施用の効果

① 保肥力向上 (原材料によって成分が異なるので注意)

② 物理性の改善

③ 微生物の増加 (ただし、ワキに注意)

有機物のはたらき



* おすすめ資材 *

北越後アイアンシリカ (ケイ酸 12%、鉄 16%、苦土 8%、アルカリ 36%)

→ケイ酸のほかに鉄、苦土、pHの改良ができる。100kg/10a

農力アップ (ケイ酸 20%、鉄 12%、マンガン2%、アルカリ 40%)

→ケイ酸を多く含み、鉄やマンガンも補える。60~100kg/10a

ミネライトAG

→ケイ酸含有量が約71%と高く、多様なミネラルを含む。

※その他資材についても各支店ふれあい営業所までご相談ください！

できるところから少しずつ！

生育の悪いところだけ・・・

圃場1枚だけ・・・

額ぶちだけ・・・

少しずつでも確実に土づくりを
していきましょう！



根の分布を広げ良い根を作るため、耕起時に一速減速して**耕深 15cm 確保**を目標としましょう。

3. 種子の準備

①塩水選

◇購入種子を使用し、充実のよい種子を選別するため塩水選を行きましょう。

◇塩水選後はよく水洗いをして、種籾袋には余裕をもたせて入れましょう。種籾の量が多いと、消毒ムラや催芽ムラの発生につながります。

塩水の作り方(水10%に対して)

	溶液の比重	食塩の場合
うるち	1.13	2.0kg
もち	1.08	1.1kg

1箱当り播種量	育苗箱数	必要種子量	種子準備量
乾籾130~140g (催芽籾150~170g)	18~20箱	2.4~2.8kg	3.0~3.2kg

②消毒

区分	資材名	処理方法	希釈倍数			
			乾籾重	水量	薬量	
環境保全型	種子消毒	エコホープDJ (微生物農薬) 浸種前・催芽前・※催芽時 200倍 24~48時間浸漬	1kg	2.5L	12.5g	
			20kg	50L	250g	
	種子活性	タフブロック (微生物農薬) 催芽前・※催芽時 200倍 24~48時間処理	1kg	2.5L	12.5g	
			20kg	50L	250g	
	MR-X	100倍 48時間浸漬	1kg	2.5L	25cc	
			20kg	50L	500cc	
湿粉衣	タフブロック	種子重量の4%:種籾1kgに対し薬剤40g(浸種前)				
温湯浸法	60℃の温湯に10分間浸漬、終了後冷水につけて冷やし水切り後乾燥する					
慣行栽培	浸漬	テクリードC70アブル	200倍 24時間浸漬	1kg	2.5L	12.5cc
		モミガードC水和剤		20kg	50L	250g
	湿粉衣	モミガードC水和剤	乾籾重の0.5%	1kg	-	5g

【生物農薬（エコホープDJ、タフブロック）の留意点】

◇催芽時の24時間浸漬効果が安定します。

◇生菌を使った薬剤のため、低水温(10℃以下)での消毒は効果が劣る場合があります。

◇浸漬時は薬液となじむよう袋をよくゆすり、取り出す際は菌が種籾表面に付着しているためゆっくりと取り出しましょう。

◇紫外線に弱いので、天日干しはさけましょう。(陰干しはOK)

③浸種

◇水温 10~15℃、積算温度 100~120℃を目安に透きとおった餡色になるまで十分に水分を吸収させましょう。

◇低水温(10℃未満)で浸種を行うと発芽揃いが悪くなり、発芽不良になる可能性があります。特に、浸種初期の水温には十分注意し、10~15℃になるよう調整しましょう。

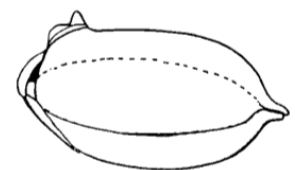
◇種子消毒効果を高めるために、前半の4日間は水の更新は実施せず、その後は水の濁り方を確認しながら2日に1回程度の割合で更新しましょう。浸種後半は特に水が濁りやすくなるため、注意が必要です。

◇籾への酸素供給・吸水を均一にするため、必ず袋の上下を入れ替えましょう。

④催芽

◇催芽温度は 28~30℃とし、1~2日かけてハト胸状態になるよう催芽を行きましょう。

◇30℃以上で催芽を行うと、細菌性病害の発生が懸念されるため、十分に注意しましょう。



正しいハト胸状態

⑤播種~適正播種量(催芽籾 160~175g)で健苗育成!~

水稻栽培記録簿記入のお願い(提出は5月末、8月末、10月末の年3回です。)

記録簿の提出はJA米の必須要件です。作業が終了したらその都度記入をするよう心がけましょう!!